

## 1 学校教育目標

基本的人権の尊重に基づき、生徒一人一人に対して深い愛情と理解をもって、生徒一人一人の教育的ニーズに応じた「最適な指導・支援や合理的配慮」を行い、徳(豊かな人間性)・体(健康と体力)・知(確かな学力)の調和の取れた生きる力を備えた総合的人間力の育成に努める。また、郷土に思いを馳せ、生涯にわたって郷土に誇りを持てる人材に育てる。

## 2 本年度の重点目標

## 1 確かな学力を育成し、自己実現を図る態度を育む

- (1) 主体的・対話的で深い学びの中で、思考力、判断力、表現力を育むとともに、生涯にわたって学び続ける態度を養う。
- (2) 生徒一人一人に応じた指導・支援を実践し、学力の基礎・基本を定着させる。
- (3) 望ましい勤労観・職業観を育成し、一人一人に応じた進路指導を行う。

## 2 道徳性と豊かな情操を育む

- (1) 心に響く多様な指導を通して命を大切に作る心や他者を思いやる心を育む。
- (2) 規範意識を身に付け、善悪を判断し、自ら律する力を育む。
- (3) 我が国と郷土の歴史や文化・伝統を尊重する態度とグローバルな視点を育む。

## 3 心身の健康と自己を管理する態度を養う

- (1) 基本的な生活習慣と正しい食習慣を身に付けさせる。
- (2) 運動に親しむ態度を育み体力を向上させるとともに、豊かなスポーツライフを実現・継続するための資質・能力を育む
- (3) 生涯を通じて安全な生活を送る基礎を培うとともに、安全で安心な社会づくりに貢献できる資質・能力を育む。

## 3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	○成果と●課題
大項目	小項目					
学校経営	カリキュラムマネジメントの実践	スクールミッション及び重点目標が示す「資質・能力」の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重点目標及びスクールミッション達成に向けた全方位的教育活動の実践</li> <li>・三課程及びゆうあい中との協力連携体制の構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能な通信制運営を意識し、委員会組織の効果的活用、横断的連携を図る。</li> <li>・教育目標達成のため、機に応じた課題別職員研修を実施する。</li> <li>・通信教育活動を通して、生徒個々の自己管理能力の向上を図る。</li> <li>・三課程及びゆうあい中との有機的連携を図る。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○委員会組織は定例会も含めよく稼働し職員の横断的で機動力のある協働が際立った。難しいケースもチェック体制を敷き度重なる協議を経ながら丁寧に対応することが出来た。</li> <li>○職員研修は昨年度に続きA・B評価併せて100%を達成し教育課題や社会情勢に応じたタイムリーな研修が出来た。</li> <li>○生徒の値はここ近年伸び悩んでいたが、今年度は71%と微増した。保護者は昨年度と同値の86%と高い値を維持した。</li> <li>○業務改善の意見を元に課程を超えた行事調整会議を新設し組織体を強化した。</li> </ul>

学校 経営	カリキュ ラムマネ ジメント の実践					<p>○四教頭会を定例化し課題共有と調整・職員への内容周知を計画的に行うことが出来た。</p>
		選択の幅を広げる教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程の定着を図り次の教育課程を見据えた授業実践を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講マニュアルの改善に努める。</li> <li>・評価基準を工夫したレポートの作成を行う。</li> <li>・現在の人員や教室数で行うことができる展開授業を工夫し1教室当たりの受講生徒数を減らす</li> </ul>	B	<p>○2026年度の新教育課程完全移行に伴い教育課程検討委員会を数回開き『受講指導マニュアル』や『通信教育のしおり』を改善・改定することができた。</p> <p>○各教科の評価基準を提出し基準に沿ったレポートの改善に各教科努めている。各教科のレポート再提出の基準を教員間で共有した。</p> <p>●年度当初、生徒数増加に伴い特に月曜日に教室から生徒が溢れる事態が生じ急遽別教室を用意し対応したことがあった。著しい生徒増の現状は工夫努力だけでは困難な状況である。</p>
	教育目標の具現化に向けた学年経営 教育目標の具現化に向けた学年経営	1年教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通信制の学び方を定着させる。</li> <li>・生徒に寄り添い生活面の規範意識を高める。</li> <li>・2年次への進級率65%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒への声かけを積極的に行い学習や生活面で保護者とも連携する</li> <li>・担任面談を適宜行い生徒の個別の状況を把握しながら生活面・学習面での指導や支援を行う。</li> <li>・学年会等で生徒の情報を共有し集団で指導にあたる。</li> </ul>	B	<p>○支援が必要な生徒には個別の支援計画を作り、保護者と連携しながらSSW等に繋いで適切に支援を行った。</p> <p>●登校できない、連絡が取れない等の理由で単位修得ができない生徒がいる。</p> <p>○学年会では毎回生徒の情報共有に努め、生徒指導や学習指導にあたった。</p> <p>○問題行動のあった生徒には学年全体で面談等の指導を行い経過観察を行った。</p> <p>○1月末における進級予定率は70.3%である。</p>

学校 経営	教育目標 の具現化 に向けた 学年経営 教育目標 の具現化 に向けた 学年経営	2年教育活動 の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒理解の 推進</li> <li>規範意識の 醸成</li> <li>3年次への 進級率70% 以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年会等での 情報共有と職 員間連携</li> <li>生徒への声か けを行い、学 習面や生活面 で保護者との 連携を図る。</li> <li>面談を通して 学習や生活、 進路について 生徒の意識や 規範意識を醸 成して学習活 動に繋げる。</li> </ul>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の情報は随時学 年会で共有した。支 援が必要な生徒には 個別の支援計画を作 り、保護者と連携し ながら個に応じた支 援を行った。</li> <li>○声かけや個別面談を 通して生徒の生活面 や学習面の状況把握 に努め、適宜保護者 と連携を図った。</li> <li>●ほとんど登校しなか ったりレポートを提 出しなかったりして 単位を修得できなか った生徒が多くい る。</li> <li>○スクーリング時の生 徒連絡や面談を通し て、学習規律や集団 規律などの意識を高 めることができた。</li> <li>●自由な校風を誤解し 自分勝手な行動をと る生徒がいた。</li> <li>○1月末段階で進級予 定率は80.2%。</li> </ul>
		3年教育活動 の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒理解の 推進</li> <li>規範意識の 醸成</li> <li>進路希望の 実現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年会等で生 徒の情報を共 有する。</li> <li>生徒への声掛 けを積極的 に行い学習・進 路・生活指導 を通して規範 意識を醸成し 学習活動の活 性化に繋げ る。</li> <li>生徒・保護者 との面談や連 絡を密に行い 進路希望に応 じた指導を適 切に行う。</li> </ul>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒情報は随時学年 会で共有し支援が必 要な生徒には個別の 支援計画を作り定期 的に生徒・家庭への 連絡等で個に応じた 支援や連携を継続す ることができた。</li> <li>○学習会参加を積極的 に呼びかけ、ほとん どの日に10人以上 が出席し頑張った。</li> <li>○三者・担任面談を実 施し生徒の学習・進 路・生活指導を行っ た。進路決定者が就 職8名、進学31名 になった。</li> </ul>

学校 経営	教育目標 の具現化 に向けた 学年経営 教育目標 の具現化 に向けた 学年経営		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4 年次進級率80%以上</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>●進路未定者に対し継続して指導していかなければならない。</li> <li>○ 1 月末の進級予定率は88.2%で目標を大きく上回った。</li> </ul>
		4 年教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 進路希望の実現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 早くから二者面談を行い希望を聴き取り助言を行う。その都度やるべきことを具体的に指示する。</li> <li>・ 進路希望や卒業に関する重要事項については、すぐーる配信を利用して啓発や周知を徹底する。</li> <li>・ 生徒の学習状況管理に注意を払う。必要な情報を的確に伝え情報に基づいて自己管理ができるよう見守り、適宜声かけをする。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○随時二者面談等を行い、生徒が誤解したりわからないままになったりしないよう進路や卒業についてやるべきことを丁寧に伝え、確認するよう努めた。</li> <li>○重要な模試やレポート提出期限など進路に直接関わることについて、すぐーるの保護者連絡を活用し生徒と保護者に周知できた。</li> <li>○毎回のスクーリングで生徒とともに学習状況を確認し助言を行うことができた。進路希望決定に向けての声かけを随時行い、生徒が主体的に進路活動を行うことを促した。</li> <li>○ 1 月末段階で卒業見込みの生徒は80%程度。このまま卒業確定となるよう更に声かけを行っていく</li> </ul>
	教育目標 の具現化 に向けた、 協力校 経営	協力校教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活と学習の両面を安定させる。</li> <li>・ 進路目標の確立と実現に向けた継続的取組の実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒への声かけを積極的に行い学習や生活面を支援するために保護者と連携を深める</li> <li>・ 進路情報の積極的提供（ICTを活用した）を行う。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○支援が必要な生徒には支援計画に基づきSSWとも連携して対応することができた。</li> <li>○進路指導部ポータルサイトを利用して情報の提供や履歴書の作成などの指導を行うことができた。</li> </ul>
		1・2年教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通信制の学びを習慣化させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個別面談を通して個々の生徒の状況を把握し、生活面・学習面での指導や支援を適宜行う。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○担任による二者面談は前後期に各1回実施できた。</li> <li>●協力校での面談は時間・職員数共に限られており機会の確保が課題。担任外の職員との連携が必要である。</li> </ul>

学校 経営			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 将来の目標への具体的なイメージを持たせる</li> <li>・ 次学年への進級率70%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分自身のキャリア形成に興味を持てるように、就業体験を行ったり上級学校の説明会に参加したりするように促す。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ Google Classroomを活用してキャリア形成に役立つイベントの告知を継続して行うことができた。</li> <li>○ 1月末時点の進級予定率は88%で目標を大きく上回った。</li> </ul>
	3・4年教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 進路目標を確立するとともに実現に向けた努力を継続的に行う。</li> <li>・ 次学年への進級(卒業)率80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個々の生徒が自己の適性を見極めながら進学・就職など具体的な目標を持てるように三者面談を行う。</li> <li>・ 進路部ポータルサイトの機能を生かして遠隔地であっても十分な進路指導が行えるように工夫する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 卒業学年は三者面談を前期1回以上実施し進路活動の充実に繋げることができた</li> <li>○ 進路指導部ポータルサイトを利用して情報の提供や履歴書の作成などの指導を行うことができた。</li> <li>○ 1月末時点の進級(卒業)予定率は90%で目標を大きく上回った。</li> </ul>	
	広報・募集活動の推進	本校通信制教育のシステム・特色等の周知徹底と募集活動の在り方検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習の場としての通信制をPRし入学生の募集を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ WEBサイトや『図南』を利用した広報活動を充実させる。</li> <li>・ 体験入学・学校説明会の案内を県内の中学校や高等学校へメール送信するとともに学校WEBサイトから申込みができるようにする。</li> <li>・ 電話質問等には丁寧に対応する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ HP更新は協力校も含め積極的に行うことができた。また広報誌『図南』も様々な活動を掲載し広報活動に活用することができた。</li> <li>○ 体験入学及び学校説明会には216組が参加した。また予約無しの訪問や各種相談・電話対応にも柔軟に対応し協力校でも随時説明会を実施した。</li> <li>○ 目標通り県内中学校への案内はFAXからメールに切り替えることができた。</li> <li>○ 体験入学と学校説明会の申込をWEBサイトからできるよう整備した。</li> <li>● WEB申込は無断欠席や申込完了確認の問い合わせが増えたことが課題である。</li> </ul>

学校 経営	業務改善	PDCAサイクルの実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒数増加に対応した年2回の業務改善実践</li> <li>時差出勤活用</li> <li>時間外勤務の適正管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>月毎の勤務状況や職場環境を衛生推進委員会で共有し具体的改善策を検討する。</li> <li>毎月の定期案内を継続する</li> <li>生徒引率等の勤務管理を適正に行い負担軽減に繋げる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>年2回の業務改善で教務分野だけでなく通信制DXや労働環境まで幅広く検討し諸課題の改善を図ることが出来た。</li> <li>年間を通して県教委各課と生徒増に伴う課程の課題を共有し助言や協力を得ながら工夫改善を進めることが出来た。</li> <li>衛生委員会では超過勤務時間以外にも課程の行末を網羅した28項目の具体的検討を行った。</li> <li>月平均7名が時差出勤し多様な出退勤の形が定着した。</li> <li>●超過勤務該当者が固定化し100時間超の状況がある。</li> <li>○「MY No 残業 DAY」では毎月平均97%の取得が出来ている。</li> <li>○生徒引率に伴う勤務管理においては適宜アナウンスを行い実施に繋げることが出来ている。</li> </ul>
	働き方改革	持続可能な通信制のための校務DX	<ul style="list-style-type: none"> <li>すぐーる活用</li> <li>生徒募集活動の在り方検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>すぐーる本格運用年につき前後期共に登録者数90%以上とし、成績や各種通知の配信を常態化する。</li> <li>様々な累積する校務のDX化を検討する</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○すぐーる登録は90%超となり生徒連絡や個別連絡等の多様な活用が進められており、懸案事項の電話連絡減少・負担軽減に繋がった。</li> <li>●すぐーるに不慣れの職員が一定数あり今暫く慣れる期間を要する。</li> <li>○学校説明会や体験入学のWEB申込を始めることが出来た。</li> </ul>
		学校支援員との効果的連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>DX支援員活用との効果的連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員と支援員を繋ぐClassroomやICT委員会との連携で各種行事や事前準備等における効果的活用を行う。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今年度からDX支援員のスクーリング活用が始まり行事時の配信等では職員の負担軽減に繋がった。</li> <li>○ICT委員会で支援員との窓口を複数配することで効果的な連携が出来た。</li> <li>○委員会の役割分担がよく機能し、各学年のClassroom運営は創意工夫をもって実</li> </ul>

学力向上	生徒の自己管理能力の向上	レポートの提出率および進級・卒業率の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート提出率前年度比5%増</li> <li>・進級・卒業率80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丁寧なレポート添削や学習会を利用したレポート作成支援を行う。</li> <li>・すぐーる・Classroomを活用した情報共有の徹底を図る。</li> </ul>	A	<p>施された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○前期第1回目レポートの提出率は前年度比で11.4ポイント(78.5%)増加した。全体の提出率は下がると思われるが、この数字が進級率とほぼ同じになると思われる。</li> <li>●学習状況通知票や通知票をすぐーる配信したがシステム不具合で紙配付となり、逆に負担がかかった。</li> <li>●学習補助教材は現在ウェブサイトに掲載しているが今後はclassroomの活用等も検討する。</li> <li>○学年別classroomを開始し90%以上が登録した。欠席者にも学校連絡が確実に届く手立てを構築することができた。</li> </ul>
	学習会・模擬試験の活用推進	学習会や模擬試験の活用による進級率向上と進路実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習会延べ参加者数1200名以上</li> <li>・模擬試験の総受験者数150名以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習会についてのルール作りを行い、自学や質問を行いやすい環境を整備する。</li> <li>・模擬試験実施のアナウンスや受験の意義をポータルサイトで伝え、受験への関心を高める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習会についてのルール作りを行い質問を予約制にすると共に自習室と質問対応の教室を分ける等の環境整備を行った。</li> <li>○学習会実施日の出校者数は延べ1423名のぼり、多くの生徒が学習会を積極的に活用した。</li> <li>●模擬試験の総受験者は延べ104名(R6は129名)で目標を大きく下回る見込みである。周知は行ったが受験行動には十分結び付かなかった。</li> </ul>
	確かな学力を育む授業改善	主体的・対話的で深い学びの実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に「学ぶ楽しさ」を実感させ知的好奇心の育成に繋げるとともに生涯学習の基盤を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が「解決したい」「知りたい」という思いが持てるようなレポートの作成やスクーリングの展開を工夫する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○各教科で問いを意識させるレポートを作成し、見通しや振り返りを取り入れることで主体的な面接指導に活用することができた。</li> </ul>

学力向上				<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的な学びの育成に向けた、観点別評価の改良を続ける。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別面接を実施し、理科では観察・実験実習、家庭科では料理実習等を行った。</li> <li>作成した評価基準はより通信制に適したものにするため今後も改良を続ける。</li> <li>生徒アンケート「面接指導は自学・自習や学力向上に役立っている」は昨年度より3%増加。今後も思考の深化の取組は各教科で工夫を継続する。</li> </ul>
		教科横断的な学びの実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>文理の枠を超えた複合的な課題を解決できる資質能力の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科横断的な学びを意識した、知的好奇心や探究心を引き出せるようなレポートを作成する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な探究の時間では個々の活動だけでなく自然科学・人文科学分野を横断させた課程独自のフィールドワークができた。数年に渡る委員会の様々な実践を全国大会で発表した。</li> <li>国語・地歴公民・理科・保体・外国語・家庭・情報のレポートで教科横断的な問題を出題することができた。</li> </ul>
		ICTを活用した授業実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>実技を伴わない教科・科目におけるICT活用率8割以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレットや電子黒板を利用した授業実践を共有する。</li> <li>生徒用タブレットの利用を進める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員のタブレット等ICT機器は利用頻度が増えてきた。</li> <li>協力校の「情報」で生徒用タブレットを使用している。</li> <li>生徒用タブレットは自宅持ち帰りも希望制で開始した。</li> <li>●協力校は全生徒にタブレット配置ができているが、本校生は台数不足により一人一台端末の完全配備には至っていない。</li> </ul>
キャリア教育(進路指導)	進路意識・職業意識の向上	入学時からの計画的・組織的進路指導の実施による生徒の進路意識・職業意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路行事参加者の延べ数350名以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数のツールで行事参加を促す情報提供を行う。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路行事ではクラスルーム等の複数のツールを活用して情報提供を行った結果、延べ参加者数は457名となり、目標を上回る成果を得た。</li> </ul>

キャリア教育 (進路指導)	進路意識・職業意識の向		<ul style="list-style-type: none"> <li>情報のICT化を推進しより効果的な情報提供を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導に関するポータルサイトを作成し、進路目標ごとと学年ごとに必要な情報を提供する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○6月中旬以降、ポータルサイトを作成し就職・進学・学習会等に関する多様な情報を集約・発信することで、進路情報提供のICT化を推進できた。</li> </ul>
	進路決定率の向上	生徒の希望を大切にした進路実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路相談対応件数(来室・ポータル含む)年間延べ100件以上</li> <li>新規学卒求人による就職内定者数20名以上</li> <li>進学合格者数60名以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路相談しやすいよう、進路指導室の環境整備を行う。また、ポータルサイト上でも進路に関する相談を受け付ける。</li> <li>来室記録を全職員で共有し職員全体で進路指導に関わる体制を整える。また、全職員で面接指導計画を立て協力して面接指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○進路相談を行いやすくするため、進路指導室の環境整備を行った。</li> <li>○延べ100名を超える生徒に対して進路相談等の対応を行った</li> <li>●ポータルサイト内に設置した進路相談フォームについては、十分な活用には至らなかった。</li> <li>○「進路指導室来室レポート」を作成し、校務サーバー内で共有することで情報共有を図った。</li> <li>●新規学卒求人による就職内定者数は16名(R5・6は13名)で微増したものの目標達成には至っていない。</li> <li>○1月末時点での進学合格者数は60名(R5・6は39名)となり目標達成ができた。</li> </ul>
生徒指導	生徒の主体性の向上(自主・創造)	生徒会活動等、生徒が主体的に参加できる行事の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事等の参加率前年度比10%増</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会執行部の組織活性化を図る。</li> <li>生徒が参加できる参加したくなる行事内容へ工夫改善し、掲示物だけでなく、classroom・すぐーるで配信し周知する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒会執行部の生徒を中心に活発に学校行事を実施することができた。</li> <li>○校内行事の充実だけでなく生徒会交流会等の校外行事にも積極的に参加し、他校との交流や意見交換から自校の工夫改善に役立てることができた。</li> </ul>

生徒指導	生徒の主体性の向上（自主・創造）	生徒会活動等、生徒が主体的に参加できる行事の充実		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒・保護者へのスムーズな情報共有と連絡事項の周知徹底を図る。</li> <li>・生徒会広報「ゆうつつ新聞」発行（6回／年）</li> <li>・ボランティアや校外活動等の案内をClass room・すぐーるで配信し生徒の興味関心を高め自主的に参加できるようにする。</li> </ul>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○Google classroomを活用した連絡体制を整備し、教員と生徒の連絡事項の共有や確認が円滑に行えるようにした。</li> <li>○生徒会の活動日程表を作成し活動日時・内容を明確化することで、生徒が計画的に活動できる環境を整えた。</li> <li>○ポスター等を活用し各種行事の周知を行った。また各種行事の報告等のため「ゆうつつ新聞」を発行した。※計6回発行</li> <li>○校外活動の案内は年間通してタイムリーにできた。校内では募金活動を行い多くの協力を得た。</li> </ul>
法令遵守と規範意識の向上	法律やマナーを守る意識、規範意識の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規範意識を高める。特別指導件数20%減</li> <li>・公共のマナーに対する意識を涵養する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な生徒部通信（6回／年）発行で個々の規範意識を醸成するとともに家庭への周知徹底を図る。</li> <li>・スクーリング時の一斉放送で多くの生徒に同様の注意喚起を行う。</li> <li>・生徒がより良い学校生活を送れるよう、担任を中心に保護者と情報共有を行い、学校と家庭の連携体制を構築する。</li> </ul>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒部通信を計8回発行し、構内外の注意喚起や規範及び交通安全意識の高揚を図った。SHR時に放送連絡を行った。またGoogle classroomやすぐーる等、あらゆる手段を活用し周知することができた。</li> <li>○日曜スクーリング時はSHR時の一斉放送で繰り返し注意喚起を行った。</li> <li>●今後は入学・転編入学時に法令遵守や規範意識について尚一層生徒や保護者に更に強く訴えていく工夫が必要である。</li> <li>●自動車やバイクの騒音対策は喫緊の課題である。許可証の提出前の一斉指導や騒音に関する誓約書を提出させる等、従来の許可の仕方を見直す必要がある。</li> </ul>	

生徒指導	法令遵守と規範意識の向上	法律やマナーを守る意識、規範意識の育成		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との連携を通じ、校内外の巡回を強化する。</li> <li>・関連機関と連携し、校外の巡回を強化する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●特別指導の件数は前年度を大きく上回った。(R6:30件→R7:56件)特に喫煙の件数が多く近隣での喫煙事案も増えた。生徒保健安全部の職員だけでなく課程の職員全員で巡回を重ねているが、近隣から多くのご意見・ご指摘が多く寄せられ課題が多い。</li> <li>○個別の案件や通信制の生徒指導におけるあり方については県教委を始め九通研、警察等の専門機関と綿密な連携を行い丁寧に対応することが出来た。</li> <li>○熊本県学警連事務局が発行する「県学警連だより」を活用し、タイムリーな事件や事案について生徒に注意喚起することができた。</li> </ul>
人権教育の推進	互いを尊重する人権教育の推進	他者の考えを理解し共感する能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内生活体験発表会や定通文化大会で他者理解の意識を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表会や大会の趣旨参加意義をLHR等で生徒に伝え前年度を上回る生徒の参加率を達成するとともに、他者の思いを受け止め互いを尊重できる意識の醸成を図る</li> </ul>	<p style="text-align: center;">B</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生活体験発表では、各発表者が自分の辛い経験や頑張っている現在の姿などを発表した。生徒達は、自分の経験と重ね合わせながら真剣に聞き入っている様子が見られた。</li> <li>●定通文化大会では生徒会執行部を中心に活躍したが、一般参加の生徒たちを更に増やせるように訴えていくことが今後の目標である。</li> </ul>
	命を大切に育む指導	全ての教育活動を通じた、生徒・職員の自他尊重の感の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権尊重を基盤にした授業、特別活動の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマに沿った生徒向け講演実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人権教育講演会では本校SCによる「ストレスマネジメント」講話を実施しストレスに直面した際の対処法等について学ぶことができた。</li> </ul>

<p>人権教育の推進</p>	<p>命を大切に する心を 育む指 導</p>	<p>全ての教育活 動を通じた、 生徒・職員の 自他尊重の感 覚の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の人権 感覚と実践 力向上。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・啓発資料を発 行し活用す る。</li> <li>・全職員参加の 校内外研修を 計画的に実施 し、研修後の 情報共有を行 う。</li> <li>・生徒会と連携 し「命を大切 にする心を育 む取組」を行 う。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「学校における合理的配慮の提供」や「障害者差別解消法」について啓発資料をもとに研修を実施し理解を深めた。</li> <li>○校外研修への一人一回以上の参加を実施し職員の人権問題に関する知識と人権意識の向上を図った。</li> <li>●校外の研修会が本校スクーリング実施日と重なることが多くオンデマンド等での研修会に変更することもあった。</li> <li>○生徒会が登校日に昇降口に立ちQRコードを提示して「心の健康観察」への入力を呼びかけた。</li> </ul>
<p>いじめの防止等</p>	<p>いじめ等 の問題行 動の未然 防止</p>	<p>生徒保健安全 部・学年部が 連携した組織 的対応の徹底</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法規理解に 基づきたい じめ対応と 組織力の向 上</li> <li>・教育面談の 強化</li> <li>・年2回の全 体調査及び 個人面談実 施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ防止に 関する職員研 修実施。</li> <li>・スクーリング 時健康観察（ 相談の有無） を欠かさず確 認し素早い初 動対応（SC やSSWへ繋 ぐ）を行う。</li> <li>・生徒間の問題 等は組織的に 情報共有し、 連携した生徒 支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○いじめ防止に関する職員研修を実施し「いじめ未然防止の意識付け」を行うことができた。また、グループワークを取り入れ、実践的な研修を実施することができた。</li> <li>○スクーリング時には健康観察相談の有無を全職員が確認し、素早く担任面談を実施することができた。必要に応じてSCやSSWと連携することができた。</li> <li>○生徒間の問題等は担任任せにせず、組織的に情報共有し、連携した生徒支援を行うことができた。また継続的な観察が必要な生徒に対しても定期的な面談や声かけを実施し生徒の不安軽減に繋がった。</li> </ul> <p style="text-align: center;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○いじめ防止等対策委員会を8回開催し、組織的な課題共有、対応を行うことができた。</li> </ul>

いじめの防止等	いじめ等の問題行動の未然防止	生徒保健安全部・学年部が連携した組織的対応の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会組織と連携した集団作り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な担任面談、巡回指導、登校指導等を徹底する</li> <li>生徒会と連携し、いじめを許さない風土作りを行う。</li> <li>生徒会と連携し「いじめを許さない行動指針」を配付し規範意識を醸成すると共に生徒に周知徹底を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○安全な教育活動のため校内巡回計画を立て、面接指導日は全職員で巡回を行い、気づきを共有した。</li> <li>○生徒会で「いじめを許さない行動指針」の検討し生徒総会で発表した。不参加の生徒にはすぐーるやGoogle classroomで周知することができた。</li> </ul>
生徒理解及び生徒支援	生徒相談、生徒理解の充実	各所連携のもと、学校全体で相談できる体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒理解研修の充実</li> <li>SC・SSW活用の推進。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒理解研修を年2回実施し全職員で生徒情報を共有する。</li> <li>学年会や各種委員会等で平素の連携を確かにし組織的な対応を行う</li> <li>ホームページ・Classroom・すぐーる等を通じて生徒・保護者に相談窓口を周知しSC・SSWとの連携のもと継続的な生徒の把握と支援を行う。</li> </ul>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒理解研修では全職員で配慮事項等を共有した。また必要に応じて配慮事項等を随時共有し個別の支援に繋げることができた。</li> <li>●生徒理解研修等での共有内容が生徒対応に十分活かされていないケースもあった</li> <li>●担任面談は生徒の登校状況により回数等の差が生じるため、学年会での情報共有を更に行う必要がある。</li> <li>○定期的にメールやGoogle classroomを通して相談窓口を周知できた。</li> <li>○昨年度よりスクーリング時の健康観察を端末入力で始め心の健康状態と面談希望を始業前にリアルタイムで把握できた。担任面談や組織的支援に速やかに繋げることができた。毎回1～2人程度の相談がある。</li> <li>○SC・SSWと情報共有を継続し生徒の支援に繋げていくことができた。</li> </ul>

生徒理解及び生徒支援	特別支援教育の推進	特別支援教育推進委員会の充実（生徒情報の共有・把握と個に応じた支援の検討）	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な生徒観の理解推進</li> <li>機に応じた個別対応方法の検討と共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月開催の特別支援教育推進委員会で各学年の生徒情報をタイムリーに共有し、支援方法を検討する。</li> <li>学年担当委員との連携のもと事前資料作成で会議時間の効率化を図る。</li> <li>関係校、関係機関と密に連携する。</li> <li>個別の教育支援計画・指導計画を確実に引き継ぎ、立案するために学年で共有する。</li> <li>年間の予定計画表を配付する。</li> </ul>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育委員会は月1回、年間10回以上実施し生徒の情報共有や支援の検討を行うことができた。</li> <li>委員会資料の入力フォームを検討し生徒情報の集約やアナウンス方法を工夫することで職員の負担感軽減に繋がった。</li> <li>支援を要する生徒を学年や委員会を通して情報共有し担任と連携しながら支援していくことができた</li> <li>関係校や専門機関・外部団体と連携し、個々の支援を複合的なチームで継続することが出来た。</li> <li>個別の支援計画の年間計画について年度当初に示すことが出来た。また、同計画については入力formを工夫することで業務改善に繋がった。</li> </ul>
		特別支援教育支援員との連携を含めた支援体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援対象生徒とその周囲の生徒がともに安心できる環境整備（理解推進・職員の対応力向上）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ケース会議（不定期）を実施・充実させる。記録を共有する。</li> <li>対象生徒や保護者に寄り添い、支援をしていく。</li> <li>外部講師を招いての職員研修を定時制と通信制合同で実施する。</li> </ul>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学年部と連携し、スクーリングや考査時の配慮等で学校生活の支援に繋げることができた。</li> <li>新たに管理職も入った支援員と特別支援コーディネーターの連絡会を前後期1回ずつ設け、効果的な生徒支援方法や組織体制について情報共有を行った。</li> <li>委員会に特別支援教育支援員が毎回参加し平素から情報共有を密にすることで、生徒個々に寄り添った丁寧な対応を継続することができた。</li> <li>外部機関の職員と連携しながら見守り、支援を行った。</li> </ul>

					○NPO法人教育支援ネットワークとらすとによる職員研修定通合同で実施した
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	熊本地震や豪雨災害等の教訓を踏まえた防災意識向上と地域連携の強化	協力校スクーリング実施に備えた事前対策と連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>協力校連絡担当者和本校担当者との情報共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スクーリング前に天気予報を確認し生徒が登校可能かどうかを判断し、生徒の登校について協力校担当職員と情報を共有し判断する。</li> <li>生徒には担任を通じてClass room やすぐー等で連絡を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>協力校スクーリングについては荒天等の対応について平素より連絡体制を整備し関係職員と事前段階から連携して当たることが出来た。</li> <li>荒天時の協力校スクーリングについては県教委と連携して機に応じた対応が出来た。</li> <li>次年度の連絡指導者会のあり方について県教委と協議し新たな体制を構築することが出来た。</li> <li>次年度の養護教諭協力校巡回について整備し、各協力校の連携を呼びかけることが出来た。</li> </ul>
		職員及び生徒の防災意識向上及び地域連携体制の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域との連携を強化した避難所運営に向けての準備</li> <li>生徒・保護者への啓発活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練や有事を想定した対処法の共有で職員の防災意識向上を図る。</li> <li>地域と連携を深め、実際に行動できるための訓練を実施する。</li> <li>各教科の学習内容に関連した防災教育研修を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災避難訓練の参加数は日月併せて約160名(R6約190名)で昨年度より大幅に減少した。ポスター掲示や担任アナウンス等も行ったが生徒アンケートでは防災意識の向上についてもA・B評価併せて約60%(R6は62%)と微減した。</li> <li>職員の防災意識はアンケートでA・B併せて100%だった。</li> <li>生徒の防災意識はA・B併せて61%であるため100%に近づけるように今後も取組を継続する。</li> <li>重要情報は「ぼうさい通信」で扱うことが多かった。啓発は今後も継続する。</li> <li>各教科での防災教育は実践を可視化するまでは行かなかった。今後は個々の取組を共有したい。</li> </ul>

地域連携 (コミュニティ・スクール など)	熊本地震や豪雨災害等の教訓を踏まえた防災意識向上と地域連携の強化	職員及び生徒の防災意識向上及び地域連携体制の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3 課程で情報共有し統一した防災対策を取る</li> <li>・ 学校版タイムラインや防災宣言を利用したの生徒への周知徹底。</li> <li>・ 防災関連情報チラシや「ぼうさい通信」の定期発行、ホームページ発信等、広報と啓発を継続させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校内避難経路の確保のため、通用口等にはできるだけ物を置かないよう見直しを図った。</li> <li>○ 3 課程で連携し「ぼうさい通信」を毎月予定通りに発行することができた。</li> </ul>
		生徒・保護者・職員間の共通理解の深化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校や生徒についての情報共有</li> <li>・ 保護者会、担任面談の充実</li> <li>・ 保護者に信頼され、相談しやすい体制作り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ すぐーる、ホームページを活用した保護者への連絡徹底を図る。</li> <li>・ 早期の出席の呼びかけや Forms を活用した出欠票の整備を行う。</li> <li>・ 学級懇談や個別面談にスムーズに移行できるように担任目線に立った事前準備やフォーマット整備を行う。</li> <li>・ 相手の立場に立った丁寧な文書の作成や電話対応の実践</li> </ul>

#### 4 学校関係者評価

- ・ いじめ問題の対応等について、迅速に対応されていることが分かった。
  - ・ クラブ活動については、生徒アンケート等で意見を集約し、実施可能なものを新設・拡充することで、生徒の登校意欲向上等に繋がるのではないかと。
  - ・ 社会に出てからのコミュニケーション力の重要性を実感している。学校でのコミュニケーション能力向上への取り組みについても継続して行って欲しい。
  - ・ 生徒の活躍の場としても、今後も地域のイベント参加をお願いしたい。
- 《情報交換項目》  
いじめ問題・クラブ活動状況・生徒たちの命や死への捉え方・進路状況  
問題事案の対応と保護者へのアプローチ等

#### 5 総合評価

##### 1 本年度の学校教育目標

8つの大項目に設定した「29の評価の観点」において、A評価→19、B評価→10 C評価→0 D評価→0の結果となり、今年度A評価の項目は「学校経営」では学年経営・協力校運営・生徒募集・業務改善・校務DX・支援員連携、「学力向上」では自己管理能力の育成

・授業改善・教科横断的な学び、「キャリア教育」では進路意識の向上、「生徒指導」では生徒会活動、「人権教育」では命を大切にすることの教育、「いじめ防止」、「生徒支援」では生徒相談・特別支援教育推進委員会・支援体制充実、「地域連携」では協力校スクーリングと全般的に増加した。全分野において各部・各委員会組織が縦横に連携し、創意工夫を行った1年間が体現された結果となった。全体評価としては昨年度を上回るものとなった。

年間を通して生徒の学びを支えていくこと、命を大切にすることの2点を主眼に職員総力で当たってきた。総括すると、学校目標は概ね達成できたと考える。

## 2 本年度の重点目標における取組

○確かな学力を育成し、自己実現を図る態度を育む取組

・「総合的な探究の時間」全国大会研究発表・進路指導部ポータルサイトの立ち上げ。

○道徳性と豊かな情操を育む取組 ・新規部署「生徒保健安全部」新設

○心身の健康と自己を管理する態度を養う取組

・養護教諭配置（新規）・特別支援教育コーディネーター2名配置（増員）

○その他の取組

・MYNO 残業デー各月実施・教育DX支援員協働による校内行事の配信実施。

教員業務支援員配置・教科書無償業務に係る会計年度職員配置

・定通体育大会事務局業務（R7～8）全通研熊本大会事務局稼働（R8、6月実施）

## 3 総合評価

前後期ともに更に生徒数が増加を続け、昨年度に続き全方向において業務が増大した。県教委に指導助言を得ながら、工夫できる部分、特に外部対応や数多くの事務作業については校務DXを図り、できる限りのことは全職員体制で行い持続可能な通信制の構築を意識した。学校評価アンケートからは生徒・保護者ともに昨年度を大きく上回るコメント数を得ることが出来た。通信制のスクーリングは月2回程度の限られた機会であるが、それでも毎週水曜の学習会や進路学習、レポート提出や個人面談、特別活動等、各々が登校して主体的かつ能動的に学習活動を進める機会は1年間を通して随所にも見られ、それが学ぶこと、人と繋がること等への高評価に繋がっていったと思われる。

今後も一人ひとりの自己実現に向けて課程上げて邁進していきたい。

## 6 次年度への課題・改善方策

1 大項目「学校経営」における“教育課程を見据えた面接授業”が伸び悩んでいるのは、生徒が増加し続け、それらの面接指導を実施する教室が足りないということも一因かと思われる。全日制等の教室を活用できたとしても、その時間に面接指導できる授業者を現在の教員数で賄うことはできない。全分野に広がる生徒増対応は、課程の工夫や努力だけでは身動きできない状況となっている。

大項目「学力向上」における“面接でのICT活用”は、これも配備された端末数以上の生徒が在籍しているため、一人一台端末としての完成を見ていないということに起因している。協力校は一人一台が完成している。

大項目「生徒指導」における“規範意識の向上”「人権教育」における“他者理解”については半年ごとに生徒集団が変容し、生徒把握や平素の指導・支援に追われ、校外の生活における把握や指導が学校単位としては追いつかない状態であることに起因している。地域からのお叱りも多い一方で、学校近隣の誰もが本校生であるわけでもなく、積極的に対応をすることで職員の精神的・肉体的疲弊を招いている現状である。一方で社会規範や対人コミュニケーションのあり方については、今後も機を逃さず全教育活動の中に浸透させ指導を続けていかなければならないところである。

2 昨年度からの外部からの問い合わせについては、生徒対応にすぐるを導入することでやや軽減した。また体験入学や学校説明会は今年度からWEB申込に切り替えた。問い合わせは電話が圧倒的に多いが、今後は少しずつ社会に浸透していくことを期待している。

3 次年度は6月に定通体育大会、全通研熊本大会が控え、大きな大会を2つ同月に実施することになる。スムーズな大会運営ができるよう準備を丁寧に進めていきたい。